

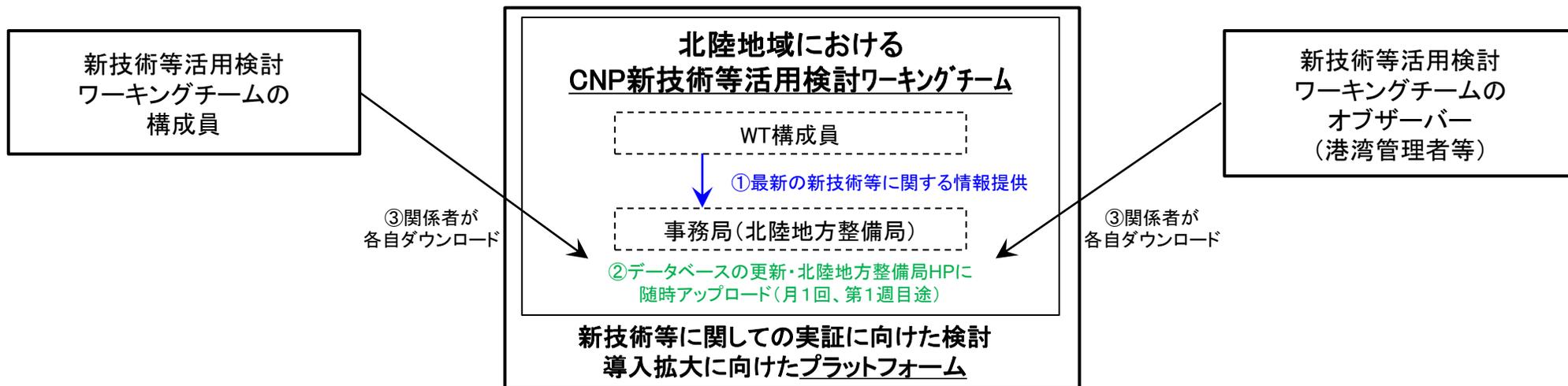
新技術等活用検討ワーキングチーム 今年度のとりまとめ

令和6年3月11日(月)
北陸地方整備局

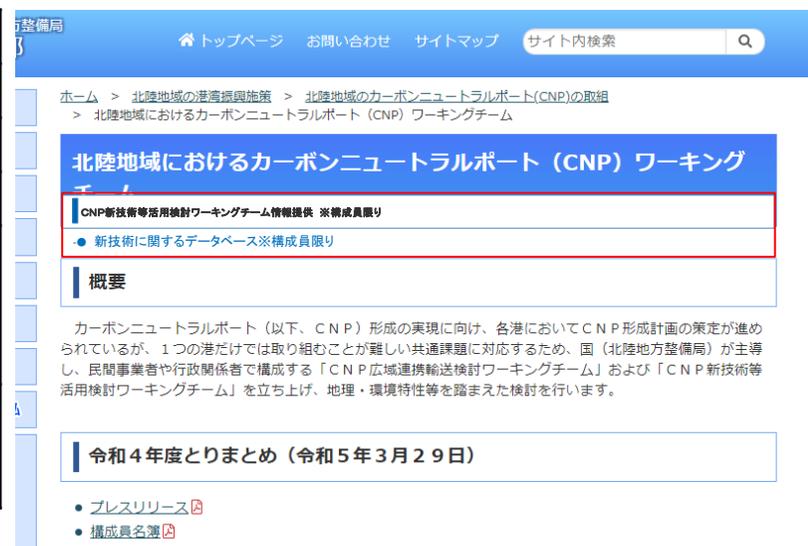
情報共有方法について

- 情報共有方法については、第1回WT・第2回WTのご意見を踏まえ、「ホームページでの共有」を採用する。
- データベース作成後もタイムリーな情報源になるよう、月1回(第1週目)を目途に更新を図る。(詳細はP3参照)

プラットフォームによる情報共有方法【ホームページでの共有】



内容	・新技術カルテ及びその内容について検索機能を付与したデータベース
対象範囲	・新技術等活用検討ワーキングチームの構成員・オブザーバー限りとする
更新頻度	・事務局(北陸地方整備局)が、月1回(第1週目)を目途に更新
共有方法	・北陸地方整備局HPでダウンロード(ファイル形式:Zip)
情報の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ダウンロード時とデータ開封時の両方にパスワードを設定 ・パスワードの漏洩リスクを考え、年度初めに毎年更新 (パスワードは別途お知らせいたします) ・各構成員がデータの入力・更新ができないよう、データ保護をかける
その他	<p>【メリット】最新情報の把握が可能</p> <p>【デメリット】特になし</p> <p>【情報共有方法に関する事務局評価】★★★★☆(迅速な情報の更新が可能)</p>



新技術カルテ及びデータベース構築内容

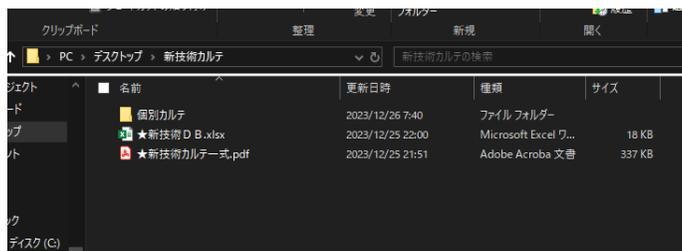
- 新技術カルテ及びデータベースでは、冒頭(1ページ目)には、今回の情報の取り扱いについて明記した。
 - データベースは、新技術カルテの整理内容について、各構成員が見たい内容を抽出できるような整理を行った。
 - 各カルテの原本(PDF)へのリンクも記載し、見たい新技術カルテへの閲覧も容易にした。
- ※ExcelとPDFのリンク付けを行うため、左下のフォルダ構成を変更しないように留意する。

組織名	TEL	E-mail	技術概要	ステージ		情報公開可否	課題・制約条件(北陸管内港湾への導入に関する留意点)						日本海側港湾への導入実績	補助金や助成制度	記入年月日	PDFへのリンク	
				段階	導入年		安全面	効率面	経済面	ハード面	ソフト面	その他					
三菱ロジスネクスト株式会社 国内営業本部 特販部 武本川崎	03-6404-1202	koichi.takemoto@logisnext.com ikumikawasaki@logisnext.com	<p>○従来のRTGで使用される蓄電池の容量はそのままに、エンジン・発電機を小型化し排気量・出力を抑える新ディーゼル発電機を採用、これにより従来型と比較し約15%の燃費削減等を実現している。さらに、将来的な水素供給インフラ整備の完了に合わせ、ディーゼル発電機からFCへの換装も可能としている。</p> <p>○従来のハイブリッド型RTGと比較し、約15%の燃費およびCO2削減とNOx、PMの低減を実現している。</p> <p>○FC換装時には、排出ガスはゼロとなる見込みである。</p> <p>【効果根拠】 従来のハイブリッド型RTGから発電機出力を220KVA→180KVAに抑えたことにより 燃費消費量とCO2排出量共に約15%削減される。</p>	商用段階	2021年～	可	安全管理体制については、別途協議とさせていただきます。	概算費用費用等については、別途協議とさせていただきます。				RTGへの水素供給に対する法整備による制約条件が生じる可能性があるが、現状のディーゼル発電機の状態であれば特段の制約条件はない。	荷役機械(RTG)に水素燃料電池を搭載・運用する際の法規制の制定が必要。(例: 充填方法・規格、荷役機械メンテナンスの資格有無など)	○北陸管内・日本海側港湾への導入実績: 金沢港 1基、富山港 1基導入済。敦賀港 2024年2月に2基導入予定。 ○太平洋側港湾への導入実績: 川崎港 2基、神戸港 4基導入済。	二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(港湾における脱炭素化促進事業): ハイブリッド型RTG(F-ZEROタイプ)の導入(令和4年度実施)	2023年12月	①クリック 個別カルテ【三菱ロジスネクスト株式会社】ハイブリッド型RTG(F-ZEROタイプ).pdf

整理カルテ例		技術概要の典拠: C N Pの形成に資する技術・取組に関する事例集(国土交通省港湾局)及び港湾における脱炭素化促進事業より記載	
カルテ No.	大区分(複数選択可)	小区分(複数選択可)	
●	<input checked="" type="checkbox"/> ターミナル内 <input type="checkbox"/> 背後圏輸送 <input type="checkbox"/> 境界部 <input type="checkbox"/> 海上輸送 <input type="checkbox"/> 脱炭素化に向けたエネルギー源の供給手法	<input type="checkbox"/> 港湾施設 <input checked="" type="checkbox"/> 荷役機械 <input type="checkbox"/> 水素・アンモニア関連施設 <input type="checkbox"/> 陸上電源施設 <input type="checkbox"/> 蓄電池 <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギー <input type="checkbox"/> フルカーボン <input type="checkbox"/> カーボン・クレジット <input type="checkbox"/> 船舶・車両 <input type="checkbox"/> CCUS <input type="checkbox"/> カーボンスイッチル <input type="checkbox"/> その他()	
技術名称	将来的な水素燃料電池(FC)への換装が可能なハイブリッド型RTG(F-ZEROタイプ)		
組織名	三菱ロジスネクスト株式会社 国内営業本部 特販部 武本川崎 (TEL: 03-6404-1202, MAIL: koichi_takemoto@logisnext.com) 川崎 (TEL: 03-6402-1202, MAIL: ikumi_kawasaki@logisnext.com)		
技術概要	<ul style="list-style-type: none"> 従来のRTGで使用される蓄電池の容量はそのままに、エンジン・発電機を小型化し排気量・出力を抑える新ディーゼル発電機を採用、これにより従来型と比較し約15%の燃費削減等を実現している。さらに、将来的な水素供給インフラ整備の完了に合わせ、ディーゼル発電機からFCへの換装も可能としている。 従来のハイブリッド型RTGと比較し、約15%の燃費およびCO2削減とNOx、PMの低減を実現している。 FC換装時には、排出ガスはゼロとなる見込みである。 <p>【効果根拠】 従来のハイブリッド型RTGから発電機出力を220KVA→180KVAに抑えたことにより 燃費消費量とCO2排出量共に約15%削減される。</p> 		
ステージ	研究段階 → 実証段階 → 商用段階 (研究・実証段階の技術導入見直し: 年頃導入、商用段階の技術導入年: 2021年～)		【情報公開】可・不可
課題・制約条件(北陸管内港湾への導入に関する留意点)	安全面	安全管理体制については、別途協議とさせていただきます。	
	効率面	-	
	経済面	概算費用費用等については、別途協議とさせていただきます。	
	ハード面	-	
	ソフト面	RTGへの水素供給に対する法整備による制約条件が生じる可能性があるが、現状のディーゼル発電機の状態であれば特段の制約条件はない。	
その他	荷役機械(RTG)に水素燃料電池を搭載・運用する際の法規制の制定が必要。(例: 充填方法・規格、荷役機械メンテナンスの資格有無など)		
北陸管内・日本海側港湾への導入実績	<ul style="list-style-type: none"> 北陸管内・日本海側港湾への導入実績: 金沢港 1基、富山港 1基導入済。敦賀港 2024年2月に2基導入予定。 太平洋側港湾への導入実績: 川崎港 2基、神戸港 4基導入済。 		
関連する補助金や助成制度	二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(港湾における脱炭素化促進事業): ハイブリッド型トランスファークレーンやハイブリッド型ストラドルキャリアを導入する事業(令和4年度実施)		

【フォルダ構成】

- ①新技術DB(Excel): 抽出可能な新技術カルテのデータベース
- ②新技術カルテ一式(PDF): 全カルテをPDFに取り纏めた資料
- ③個別カルテ(フォルダ): ①のリンク用のファイル



②リンク先のPDFが開く

情報共有プラットフォームの掲載・更新スケジュール

- 本ワーキングチームでのご意見を踏まえ、更新した新技術カルテ及びデータベースの内容について、3月中旬に確認依頼を実施し、意見を集約・反映した上で、4月の第1週に北陸地方整備局のHPに掲載する。
- 4月以降については、以下のスケジュールで、月1回(第1週目)を目途に情報の更新を図る。

	3月																											
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31							
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日							
事務局	ワーキングチーム	→ 本WTの意見への対応							→ 意見の集約・反映					→ HP掲載準備														
構成員 オブザーバー		→ 新技術カルテ内容の確認 情報共有プラットフォームの運用に関する案内 (パスワード設定、事務局との情報共有方法 等)																										

	4月					5月					6月					7月	
	1週	2週	3週	4週	5週	1週	2週	3週	4週	5週	1週	2週	3週	4週	5週	1週	...
事務局	★ HP掲載				★ 情報集約	★ HP更新				★ 情報集約	★ HP更新				★ 情報集約	★ HP更新	...
構成員 オブザーバー				★ 情報確認・提供					★ 情報確認・提供					★ 情報確認・提供			...

次年度以降の取組み

- 北陸地方整備局のホームページによる新技術情報の共有を実施し、日本海側港湾のCNP 新技術等活用に向けたプラットフォームの枠組みを維持する。
- 今後、事務局側で関連情報を入手した際には、プラットフォーム内にその内容を掲載する。
- 今年度までのWTの開催形式は、終了とするが、今後、工場見学会や新技術カルテの更新状況などに応じた技術説明会などの情報交換ができる枠組みを維持していく。